

3. ササユリ（ユリ科ユリ属）

Lilium japonicum Thunb. ex Houttuyn

2014年6月

6月に入ると庭先で目につくのがカラフルなユリです。これらのユリの多くは日本の野生種を改良した園芸種です。日本には美しい野生のユリが多く、私たちの身近にも可憐なピンク色のササユリがあります。ササユリは日本特産種で、本州中部地方から西へ、四国、九州を含む里山に自生するユリです。姫路市から高砂市にかけての丘陵地に見られます。明るい場所を好み、林下の暗いところでは枯れもせず細々と生育しています。木々の伐採や火事などで陽が射すとてきめんに生長開花します。ある地域ではササユリまつりと称して観察会を行うほど、シンボリックな花になっています。身近にある植物とはいえ、栽培は極めて難しく、野生株を採取しても数年で枯らしてしまうのが一般的です。また、種子発芽に2年を要し、スカシユリやヤマユリは直蒔きで翌年には発芽するのですが、ササユリは翌々年まで発芽しません。したがって、発芽を試みても失敗した、と思ひ込む種類なのです。さらには成長も遅く、播種から開花まで7年を要するといわれます。名前の由来は葉がササに似ていることからササユリになったと考えられますが、一方、生態的にササ群落の中に生育することが多いので名前の由来になったというのほうそのようです。花色も白に近いすピンクから濃いピンク色までありますが、兵庫県播磨地域では宍粟市山崎町や加東市社町に生育する個体群は濃い花色が多く、概ね南にいくほど薄くなる傾向と考えます。



加古川市高御位山産



加西市南網引産



加東市社町産



宍粟市山崎町産